

親子で楽しむ夏休み

夏休みの子どもたちの思い出づくりにと、市内で23、24日、工作や実験、陶芸体験などのイベントが開かれ、多くの親子連れらが楽しんだ。

市男女共同参画推進センターの「子育て応援！パパ講座」は24日、すこやかセンターであり、市内の4歳～小学4年生と父親ら25人がペットボトルを使った風鈴作りに取り組んだ。

講座は男性の育児参加を促そうと2013年度から実施。参加者は元中学校美術教諭山川仁吉郎さん(66)に作り方を教わりながら、切断したペットボトルに穴を開け、手芸糸を通し、短冊や鈴を取り付けた。

透明なペットボトルを色付けしたり、動物やソフトクリーム、星のシールを貼ったりして装飾。短冊には花火、天の川の絵を描いたもの

パパと風鈴作ったよ

すこやかセンター



ペットボトルを使った風鈴作りを楽しむ親子ら

のや、「プールに行けなかった。家に飾りたい」のように「との願い事をしたためたものもある」と話していた。宇野小2年岩本琉来さん(7)は「色塗りが難しかったけど上手にできた。家に飾りたい」と話していた。(西崎哲也)

形に一苦労 備前焼挑戦

ミネルバ

市生涯学習センター(ミネルバ)では24日、夏休み恒例の親子陶芸教室が開かれ、荘内小3～5年生と保護者の12組24人が備前焼作りに挑戦した。

センターの陶芸教室で講師を務める岡本啓介さん(84)＝樋ヶ原＝ら3人が指導。参加者はろくろ、へらなどを使い、粘土を苦労しながら成形し、茶わんやカップなどを完成させた。中には、半円形の装飾を施した皿、ひょうたん形の花入れなど趣向を凝らした作品も。父母が子どもを手伝う場面も見られた。

猫形の小物入れを制作した



備前焼の作品作りに励む親子

4年河本莉菜さん(9)は「ろくろを回すのが楽しい。猫の耳の形を作るのが難しかった」。母友里さん(38)は「子どもが楽しそうにやっている姿を見ることができて良かった」と話していた。

教室は、親子の絆を深めてもらおうと毎年学区を決めて実施。作品は乾燥させた後、センターの窯で焼き上げ、8月下旬に引き渡される。(西崎哲也)



種子の模型を投げ上げて落ち方を実験する児童ら

日比小児童に体験の場を提供している「わだ子ども楽級」は23日、同小で行われ、1～5年生と保護者の約30人が参加。植物の種子の模型を使って、宇宙でロケットを惑星に安全に着陸させる方法を考えた。

玉野高物理教員と同高3年生5人が講師を務めた。「どうすれば宇宙で安全に着陸できるか考えよう」と呼び掛け、ニワウルシやフタバガキといった植物の種子が地面に落下するときの様子を参考にすると説明した。

宇宙での安全な着陸は？

わだ子ども楽級

児童たちは短冊や長方形に切った紙を、折り曲げたりクリップを挟んだりして種子の模型を制作。模型を投げ上げると、くるくると回転しながらゆっくり落下し、「不思議」「なんで」と歓声を上げて何度も繰り返し実験した。

実験後はグラウンドで玉野高生徒が自作のモデルロケットの打ち上げを実演した。日比小1年吉田咲良さん(7)は「面白かった。いろんな落ち方をした」と楽しんでいた。(内田貴大)